

## —板書について—

板書は授業の過程を黒板という平面に記録したものである。その授業に関係する内容のみが記録されるように常に黒板を整理しておくことが大切である。つまり、板書を見ると、その授業の内容がわかる。したがって、何を問題として話し合われたかが明確になっている必要がある。板書計画のない板書は、授業自体に問題があるといってもよい。また、子どもの思考を整理するうえでも重要である。

### 1. 板書計画を用意しておこう

板書は、指導者の主張が、はっきりと示される必要がある。どんな板書にするかは、指導者の意図によって変わるから、マニュアル的なものはないし、「望ましい板書」というものもない。

- ①課題をはっきり把握させるため、いつどこにどのようにかくかを考えておこう。
- ②自力解決の場面で、課題を確認できるようなかきかたをしよう。
- ③まとめのかき方をいつどこでどのようにかくかを考えておこう。
- ④書き残すことと消すことを区別しておこう。

(子どもの頭にどんなイメージを残すか。ノートには、何を残すか。)

- ⑤黒板の使い方を教師と子どもで相談してどこに何をかくかをあらかじめ決めておくのも一つの方法である。

### 2. 板書するにあたっての留意事項

- ①学年の発達に応じて字の大きさを考え、書く言葉を慎重に選ぼう。
  - ・教師が板書をしているとき、子どもの目は黒板に注がれている、ということを忘れないように。
- ②誤字や誤った送り仮名のないように気をつけ、文字・記号・筆順を正しくしよう。
  - ・教師の間違ひは、子どもに誤りを固定させてしまう結果となる。
  - ・低学年においては、ひらがなの「とめ・はね・はらい」に気をつけよう。
- ③黒板に正対して板書しよう。
  - ・図形は定規やコンパスを使うのが原則。定規で線を引く時は、左→右、上→下に引く。
- ④小黒板やホワイトボードを活用しよう。
  - ・子どもが自分の考えを書いたり、発表したりするときに役立つ。
  - ・書き残すことと消すことを区別することが大切。
- ⑤色チョークの活用を工夫しよう。
  - ・白を基本色とし、赤・黄・青を効果的に使い分ける。
  - ・大切なことは赤、新しく出てきた用語や記号は黄などと、子どもと色を約束して使うとよい。
- ⑥板書は消さずにそれを基として、授業の最後に、本時の目標を押さえよう。
  - ・板書によって本時の学習の展開がわかるということを目標にして、その書き方を工夫する。
- ⑦子どもの名前の入った磁石を使おう。
  - ・子どもの名前をマグネットシートに書いて黒板の隅に貼っておくと、多様な考え方の分類の時に便利。
- ⑧黒板は、広く使おう。全面が使用できるように工夫しよう。
  - ・日付、日番、時間割、連絡等は、うしろの黒板を使ってもよい。